
種族と地域の壁

頭照多髪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

種族と地域の壁

【Nコード】

N8092L

【作者名】

頭照多髪

【あらすじ】

晴天に浮かぶ大きな影が二つ

我が名はデュランダル。

至高の騎士、敗北の文字を知らず。

戦場に出るたびに勝利をもたらすこの私を

人々は『ヴェルンドの剣』と呼ぶ。

そのあまりの強さから私を引つ切り無しに軍へと勧誘しようとするが

私はあくまでも孤高。何かに属すなどはしない。

今日も私は己が欲望の為に生きる。

草木が揺れ動く見晴らしの良い丘で食事を取る。

戦闘で勝ち得た一握りの肉と新鮮な魚だ。

空はこれ以上ないであろうほどに快晴で心地が良い。

この至福の一時の為に私は戦い、生きているのだ。

食事を終えたらどこへ行こうか。風に身を委ねようか。

考える前にとりあえず身を整える事にしようか。

「貴様はデュランダルか。」

背後から声。

振り向くとそこには見るからに屈強の戦士の姿があった。

「我が名はマルシル、貴様の首とこの場所を頂くべく参上仕った。」

「よかるう、やってみるがいい。」

私はこのお気に入りの場所に無断で足を踏み入れたこの男に苛立を覚えた。

敵はすぐに排除しなければいけない。この時間を邪魔されない為に。

まずは“これ”を排除して溜飲を下げる事にしようか。

剣を出し斬りかかる、大抵は一振りすれば皆逃げ出すのだがこの男は見事に剣を受け流しこの私の喉に牙を立てた。

「ぐう…!？」

苦痛に表情が歪む。かなりの手練だろう。

「どうしたデュランダル。貴様の力はそんなものか。

これでは済ませてきた食事の時間よりも短く貴様を始末する事ができるな。」

「…ほざけ!!マルシル!」

牙を振り払い胸に一太刀浴びせた。

傷は浅いが、ダメージよりも精神面で優位に立つことができる。

奴はもう同じ行動はしてこまい。

「ふふ、楽しいぞデュランダル。貴様も相当な使い手だな。

我が国では既に相手など務まる者がいない。嬉しいぞ私は、フハハハ!」

「クク、私とて同じこと、貴様も強い男だな！」

同時に踏み込んだ瞬間。

突然両者の体の言うことが効かなくなった。

「こ、これは…!？」

「い、一体…!？」

薄れゆく意識の中で近づいてくる大きな影が二つ。ハッキリと認識できた。

「やあねえ、野良猫つてうるさくてかなわないわ。毒入りの餌置いといてほんと助かつちゃった。」

「ほんと、ほんと。さっさと保健所連れて行きましょ。病気持ってたらかなわないわ。」

我が名はデュランダル。

この世に生を享けて2年目に民家の近くにて敗北を知る。

(後書き)

に
や
ー
ん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8092/>

種族と地域の壁

2011年1月27日00時13分発行